縄文人と弥生人が共生の痕跡が出土した 弥生の大集落遺跡　　2020.2.1.

神戸市西区 玉津田中遺跡の発掘現場 171 号地点を訪ねる

遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	

【 内　　容 】

1. 縄文人と弥生人の共生に思いを馳せて
   縄文の祭りの象徴 石棒と土偶が出土　強く感銘をうけた伊丹市の弥生前期の口酒井遺跡
2. **縄文人と弥生人が共生の痕跡が出土した 弥生の大集落遺跡玉津田中遺跡**
   縄文人と弥生人が共生の痕跡を示す遺物の出土概要
   添付 玉津田中遺跡現地説明会資料　2020.1.26.（公財）兵庫県まちづくり技術センター
3. **縄文人と弥生人が共生の痕跡が出土した 弥生の大集落遺跡**　　2020.2.1.
   神戸市西区 玉津田中遺跡の発掘現場 171 号地点を訪ねる

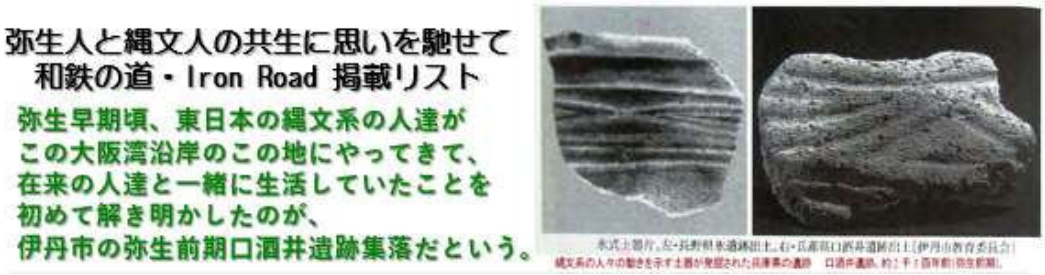
2020.1.22.　久しぶりの関西からの縄文ニュース
西神戸弥生の大集落 玉津田中遺跡で、縄文人と弥生人の共生を示す痕跡の証拠　縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土したという。
出土した土偶は表情が縄文の土偶の特徴とは少し異なる顔　ノッペラボウのスッキリした形。
弥生の人達が作ったのだろう。それもよく知る近くの西神戸玉津田中遺跡からの出土です。
縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた玉津田中遺跡がにわかにクローズアップされた。
「心優しき縄文人　縄文帰りの勧め」を口にする私にとっては
久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、
現地説明会１週間後の２月１日　西神戸の玉津田中遺跡を訪ねました。

久しぶりの関西からの縄文ニュース　202021.
縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す　弥生時代の大集落遺跡
神戸西区　玉津田中遺跡　171号地点発掘現場を訪ねる
【整理転載 &　参考資料】

【整理転載 &　参考資料】

1. 玉津田中遺跡　現地説明会資料　2020.1.26.（公財）兵庫県まちづくり技術センター
2. 神戸市教育委員会　記者発表資料 2020.1.21.
   玉津田中遺跡（神戸市西区平野町）の発掘調査成果と現地説明会
   http://www.hyogo-c.ed.jp/~boardbo/kisya31/3201/320122kouko.pdf
3. ニュース「玉津田中遺跡　現地説明会」　SunTV・神戸新聞 Next ほか

【和鉄の道・Iron Road　:関連掲載記事】



1. 畿内と播磨の境　　明石川・伊川流域
   弥生の高地性集落「表山」遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf
2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　　2006.12.5.
   神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫨谷
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf
3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す
   大阪湾沿岸の弥生集落　田能・口酒井遺跡を訪ねる　2012.12.21.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf
4. 心優しき縄文人　縄文帰りの勧め　　2014.6.1.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf

兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	

1.　縄文人と弥生人の共生小思いを馳せて

弥生の土器とともに縄文の祭りの象徴　石棒と土偶が出土

強く感銘をうけた弥生前期の集落遺跡　伊丹市の口酒井遺跡のこと

https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf

今回　ニュースを聞いて、一番に頭に浮かんだのは、和鉄の道・たたら探求のホームページをはじめ、日本人のルーツや縄文や弥生の暮らしに興味を持った 10 数年前に出会った伊丹市の弥生前期の集落口酒井遺跡のこと。

和鉄の道・鉄の探求 walk をスタートし、各地の遺跡に通い出した頃、「弥生は戦さ　縄文は平和な時代」と教えてもらい、「鉄と戦さの関わり」にも興味があり、調べた時に出会った遺跡です。

弥生の土器とともに縄文の祭りの象徴　石棒と土偶が出土し、研究者たちが縄文人と弥生人が共生したと考え初めた最初の遺跡。口酒井の弥生人と縄文人はお互い戦わずに共生していたと。

縄文から弥生へ移る時代の中で　縄文/弥生の人種間の大きな戦はなかったのだと。

でも、当時　弥生の時代といえば　渡来人を中心とした農耕稲作の時代。

阪神間や大阪平野には弥生の大集落田能遺跡など数多くの弥生の集落が存在し、また、大阪平野には殺傷痕跡を持つ人骨がいくつも出土し、周辺の高地には戦の備え高地性集落が数多く出現した。

西神戸でも丘陵地には弥生の高地性集落、平野部には殺傷痕がある人骨が数多く出土する。

この玉津田中遺跡のすぐ近くの新方遺跡からも殺傷根がある人骨が出土している。

口酒井遺跡の評価はそんな遺跡群の中に埋没してしまい、一般人では殆ど知られぬ遺跡。

でも、わたしには　今も忘れられぬ遺跡です。

それか 10 数年　縄文が教科書からも消え、縄文がさらにないがしろにされる今

また、縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた玉津田中遺跡がクローズアップされた。

「心優しき縄文人　縄文帰りの勧め」を口にする私にとっては久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、もっと縄文を知ってほしいと。

現地説明会には行けませんでしたが、１週間後の２月１日　思い立ってすぐ、西神戸の玉津田中遺跡の発掘現場の玉津田中遺跡 171 号地点を訪ねました。

【和鉄の道・Iron Road　:関連掲載記事】

1.　畿内と播磨の境　　明石川・伊川流域
弥生の高地性集落「表山」遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf

2.　弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　2006.12.5.
神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫨谷
https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf

3.　水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す
大阪湾沿岸の弥生集落　田能・口酒井遺跡を訪ねる　2012.12.21.
https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf

4.　心優しき縄文人　縄文帰りの勧め　　2014.6.1.
https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf

2. 報道概要　縄文人と弥生人が共生の痕跡が出土した 弥生の大集落遺跡玉津田中遺跡

神戸新聞　2020.1.22.　朝刊

弥生の土偶「のっぺり顔」

狩猟から農耕へ「変遷知る史料」

玉津田中遺跡から見つかった土偶。表情が平面的で弥生人の特徴を示す＝神戸市西区平野町

兵庫県教育委員会は22日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは4例目。専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。（佐藤健介）

神戸・玉津田中遺跡で発見

同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約1・5平方キロメートル。第二神明道路建設工事に伴い、2019年5月から調査していた。西側にある弥生前期（約2300年前）の集落跡から、土偶の頭部（長さ約7センチ、最大幅約6センチ）と石棒（長さ約46センチ、最大幅約5・3センチ）が各1点、ほぼ完全な形で発見された。

土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくっきりして彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

秋山浩三・桃山学院大客員教授（考古学）は「呪術に象徴される縄文精神の残影が、弥生で共存していたことを如実に示している。狩猟文化が農耕文化を受け入れる過程の解明が期待できる」と評価している。

現地説明会は26日午後1時半～3時にあり、県立考古博物館（播磨町）で同日午後0時半～1時に説明会を現地からライブ中継する。

現場事務所☎078・961・0678（平日午後0時10分～1時、同5～6時）

神戸新聞NEXT

弥生時代の集落跡から縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1. 22.

兵庫県教育委員会は２２日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。
土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは４例目。専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。
同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約１・５平方キロメートル。第二神明道路バイパス建設工事に伴い、２０１９年５月から調査していた。
西側にある弥生前期（約２３００年前）の集落跡から土偶の頭部（長さ約７センチ、最大幅約６センチ）と石棒（長さ約４６センチ、最大幅約５・３センチ）が各１点、ほぼ完全な形で発見された。
土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。
目鼻立ちがくっきりして彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。
弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

◎　兵庫県教育委員会記者発表　2020.1.22. より整理

http://www.hyogo-c.ed.jp/~boardbo/kisya31/3201/320122kouko.pdf

玉津田中遺跡調査成果の概要

1　遺　跡　名　玉津田中遺跡（たまつたなかいせき）
2　遺跡の種別　集落遺跡
3　遺跡の時代　弥生時代・中世
4　所　在　地　神戸市西区平野町下村
5　調査面積　約1,700㎡　（№171地点）
6　調査期間　令和元年5月～令和2年2月末（予定）
7　調査原因　一般国道2号第二神明道路建設事業
8　調査主体　兵庫県教育委員会
9　調査機関　（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
　　担当　山田清朝副課長、濱原悠斗技術職員

10　調査の概要

① 兵庫県を代表する弥生時代～鎌倉時代の集落遺跡である玉津田中遺跡は、昭和59年度から平成3年度にかけて土地区画整理事業に伴なう発掘調査が実施されました。その後の調査の結果、遺跡の規模は南北約2km、東西約1km、面積は約1.5㎢に及び、多くの土器とともに弥生時代の住居跡・墓、鎌倉時代の建物跡・墓・井戸などが多数見つかりました。

② 今年度、第二神明道路建設事業に伴って玉津田中遺跡の北西部を3地点（№164地点、№171地点、№175地点）調査しました。今回は、そのうち№171地点の成果について発表します。
　この調査地点から、弥生時代と鎌倉時代以降の遺構が見つかりました。

③ 鎌倉時代以降の遺構は、掘立柱建物跡・柱穴・土壙・溝があり、鎌倉時代に使われていた須恵器・土師器も出土しましたが、その量はわずかです。

④ 弥生時代の遺構は、前期（今から2,300年前）のものに限られ、土壙や柱穴・溝があります。土器・石器などが出土しましたが、特筆されるものに石棒1点、人形土製品（土偶）1点があります。

⑤ 石棒は、縄文時代に多く見られる祭祀具で、完全な状態で出土し、和歌山県や徳島県で産出される緑泥片岩でつくられています。弥生時代の出土は兵庫県内で9例目となり、神戸市内では、本山遺跡（東灘区）、北青木遺跡（東灘区）、雲井遺跡（中央区）、大開遺跡（兵庫区）、戎町遺跡（須磨区）、宇治川南遺跡（兵庫区）について7例目、他に、丁・柳ヶ瀬遺跡（姫路市）と井手田遺跡（南あわじ市）で出土しています。

⑥ 人形土製品（土偶）は縄文時代の土偶と同じく祭祀に使用されたと考えられます。頭の中から頭部がほぼ完全な状態で出土し、顔の表情が確認できます。弥生時代の出土は兵庫県内で6例目となり、神戸市内では、雲井遺跡（中央区）、宇治川南遺跡（兵庫区）、長田神社境内遺跡（長田区）について4例目、他に、口酒井遺跡（伊丹市）と丁・柳ヶ瀬遺跡（姫路市）で出土しています。
　石棒と人形土製品（土偶）が同じ遺跡から出土したのは、雲井遺跡、宇治川南遺跡、丁・柳ヶ瀬遺跡について兵庫県内で4例目となります。

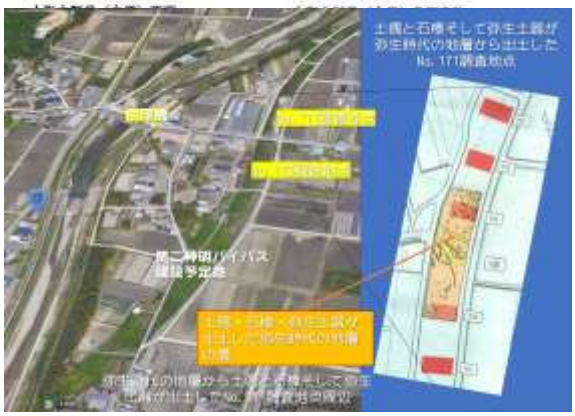
11　ま　と　め
　石棒と人形土製品（土偶）は縄文文化を象徴する一方、弥生土器や石包丁などは弥生文化を特徴づける要素で、両者が同じ調査区から一緒に出土している点が注目されます。これらは、縄文時代から弥生時代への移りかわりを知る事例と考えられます。

玉津田中遺跡　発掘調査状況写真

玉津田中遺跡調査区全景（南から）

弥生時代前期の遺構の調査状況

石棒と土器の出土状況



縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す　弥生時代の大集落遺跡

http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya31/3201/320122kouko.pdf　より

添付 玉津田中遺跡現地説明会資料　2020.1.26.（公財）兵庫県まちづくり技術センター

次のpageに添付しています

たまつたなか

玉津田中遺跡

令和２年１月 26 日（日）

現地説明会資料

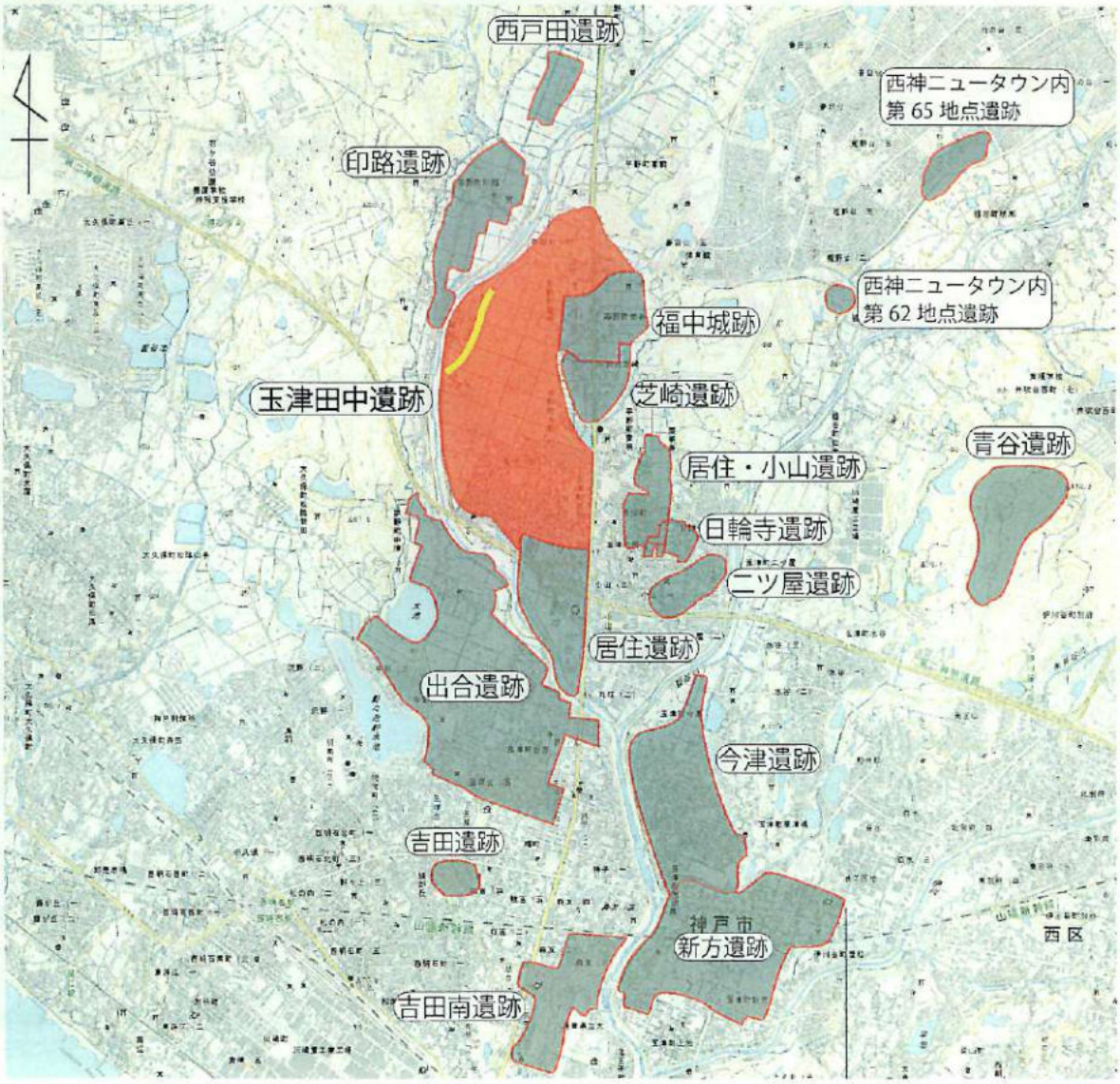
兵庫県教育委員会
（公財）兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
〒675-0142
兵庫県加古郡播磨町 1-1-1 兵庫県立考古博物館内
URL：http//www.hyogo.ctc.or.jp

－はじめに－

玉津田中遺跡は、神戸市西区玉津町及び平野町に位置する遺跡です。

一般国道２号（第二神明道路）の建設に先立ち、（公財）兵庫県まちづくり技術センターが兵庫県教育委員会からの委託を受け、発掘調査をおこなってきました。

今回、No.164 地点・No.171 地点・No.175 地点を調査しました。発掘調査は、道路の橋脚建設予定地のみ行われたため、各調査地点内は複数の調査区に分かれています。また、No.171 地点では橋脚建設予定地の調査の後、新たに調整池建設予定地の調査（１区）を追加して行いました。現地説明会では、この１区の調査をご覧いただきます。



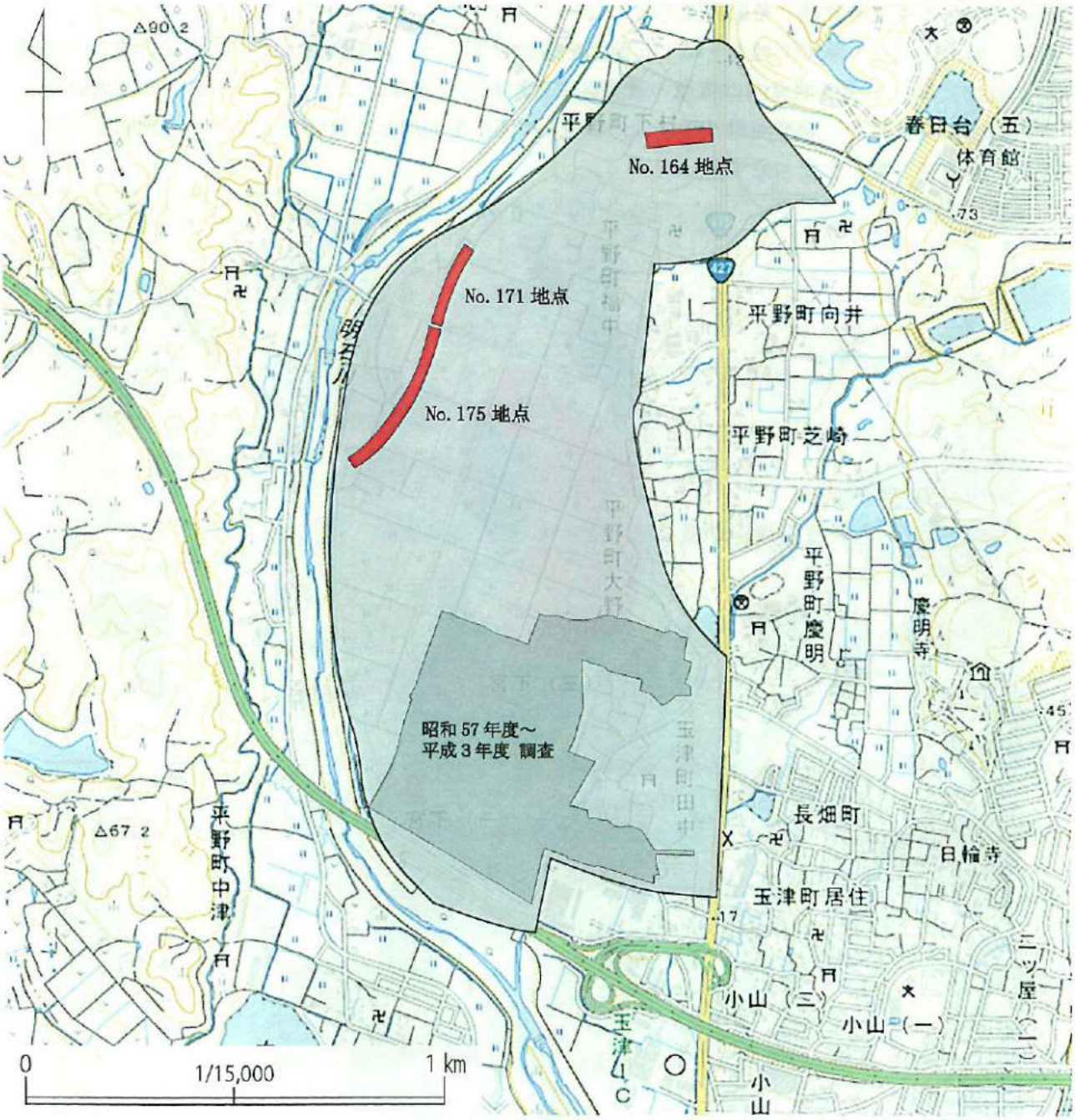
玉津田中遺跡と周辺の主要遺跡

玉津田中遺跡の概要

玉津田中遺跡は、明石川中～下流域の沖積地から台地上にかけて立地する遺跡です。昭和57年度から平成3年度にかけて、ウインズタウン西神戸の区画整理事業に伴って、約80,000㎡もの大規模な発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代晩期から古墳時代後期の集落と、平安時代後期から鎌倉時代の集落・居館跡が確認されました。

なかでも特筆すべきは、弥生時代の遺構と遺物です。遺構は、多数の竪穴住居跡や方形周溝墓などが見つかりました。また、その周辺からは広範囲におよぶ水田の痕跡が見つかりました。遺物についても、多量の土器や石器、木器、青銅器が出土しています。なかには、遠方の地域からもたらされた土器や石器もみられ、当時の人々の交流の様子が窺えます。

このように、玉津田中遺跡は弥生時代においては播磨地域を代表する中心的な集落でした。

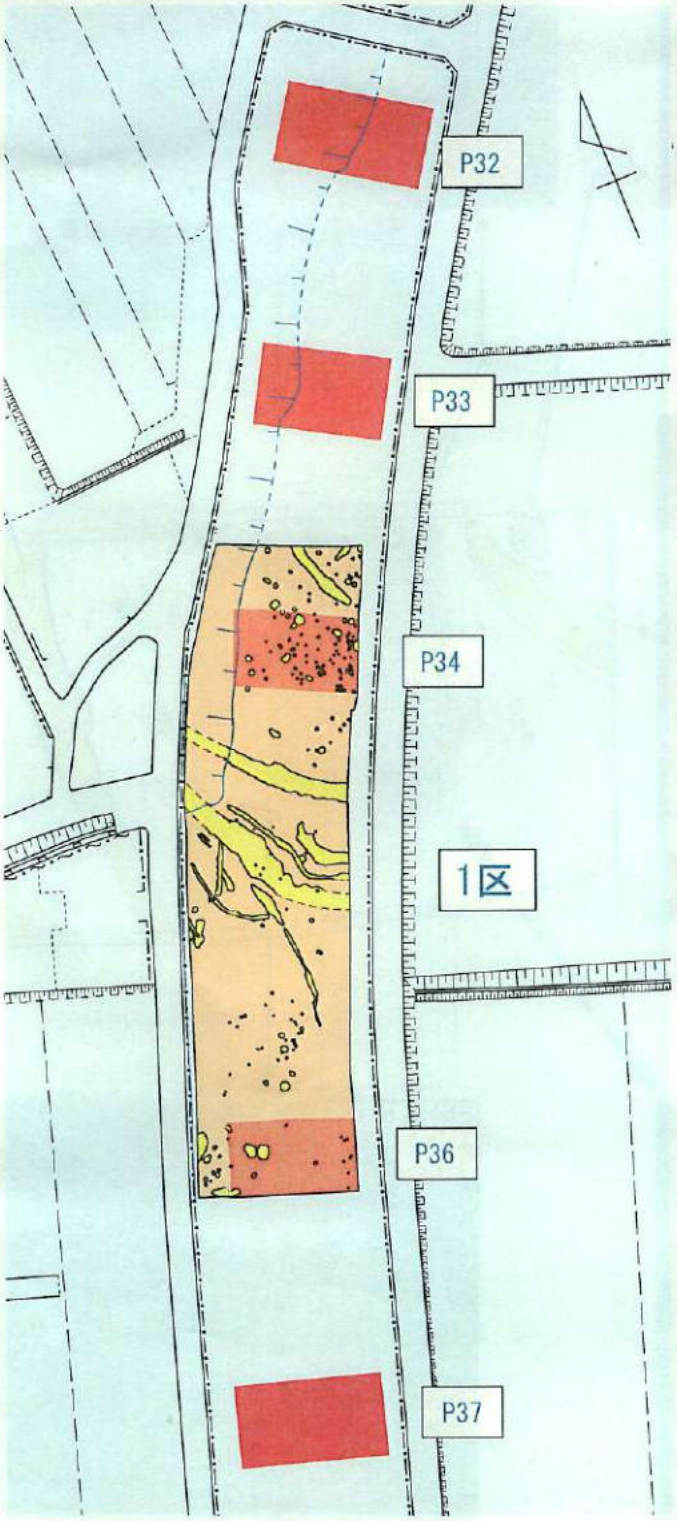


玉津田中遺跡の遺跡範囲と今回の調査箇所

No. 171 地点

6 箇所で調査を行いました。今回見学していただく 1 区は、追加で調査を行った調整池建設予定地であるため、先行して調査を行った P34 区と P36 区に重複するかたちで設定されています。調査の結果、No. 171 地点の全ての調査区で弥生時代前期と中世の遺構と遺物が検出されています。

今回は、P34 区と P36 区を含む 1 区と、その他の調査区に分けて説明します。



No. 171 地点調査地

No. 171 地点　俯瞰写真

縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土

神戸市西区平野町下村 明石川東岸 第二神明バイパス工事現場 玉津田中遺跡 No171 地点

No. 171地点　1 区（弥生時代前期）

玉津田中遺跡

P34区　全景（西から）

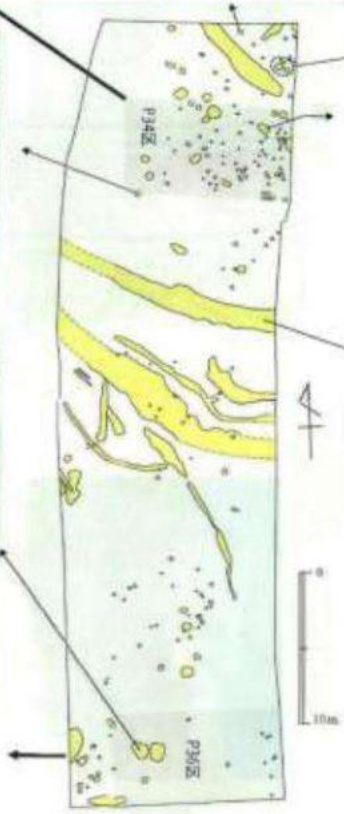
土坑の底から、2個体分の土器が重なった状態で出土しています。そのうちの1個体は、河内地域で作られ、持ち込まれたものです。

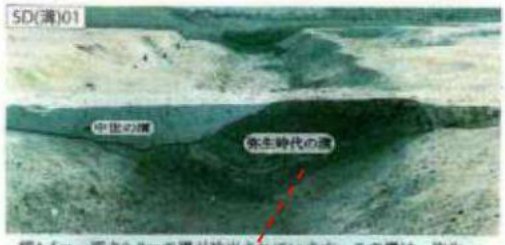
隣り合った土坑の中から、やや斜めに倒えられた状態で甕が出土しています。これらは土器棺墓と考えられます。

土坑の中から、弥生時代前期の土器と重なり合った状態で、長さ46cm、幅約2.5cmの石棒が出土しています。

土坑の中から、壺や甕がまとまって出土しています。

直径1.6m、深さ0.7mの土坑の底から、甕が出土しています。

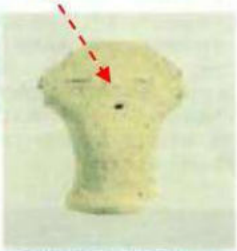




幅4.5m、深さ0.8mの溝が検出されています。この溝は、弥生時代に掘られ、埋没したのち、中世に再び掘り直されています。弥生時代の溝からは、土器や石包丁、土偶が出土しています。

P36区　全景（西から）

溝の最上層から出土した石包丁



溝の最下層から出土した土偶

No. 171地点　1 区（弥生時代前期）

玉津田中遺跡
出土土偶

現説資料 P4-5 を A4 縦 1 枚に再構成整理

No. 171 地点（1区以外）

No. 171 地点のその他の調査区では、1区と同様に、弥生時代前期および中世の遺構と遺物が検出されています。P32 区では、調査区の西側で明石川の水流によって長い年月をかけて形成された崖（段丘崖）が見つかっています。崖の高さは約 0.8 mで、P32 区の南側の P33 区や 1 区からも見つかっています。崖の上からは、弥生時代の溝やピットが見つかっています。また、溝からは弥生時代前期の土器と共に、石包丁が出土しています。この石包丁はサヌカイトという石で作られており、香川県から持ち込まれたものです。

P33 区では、土坑の中から弥生時代前期の壺や甕がまとまって出土しています。出土した壺の口の付近には、紐を通すための孔が空いており、蓋とセットであったと考えられます。

P32 区　石包丁が出土した溝

P32 区　段丘崖上の遺構
（黄色の点線が段丘崖）

P32 区　段丘崖

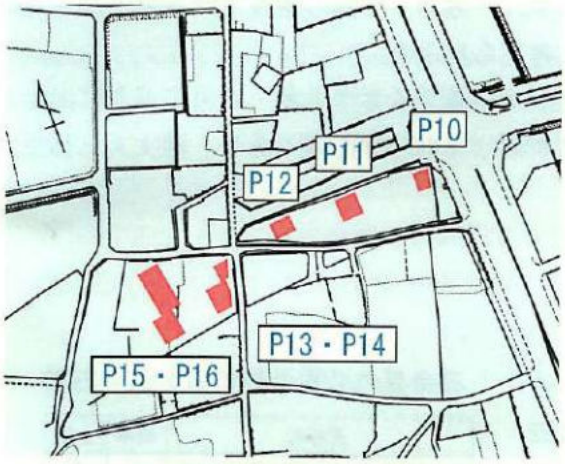
P33 区　段丘崖の下から出土した壺

P33 区　土坑内からまとまって出土した壺や甕

No. 164 地点

国道 175 号線に面するNo. 164 地点では、5 箇所で調査を行いました。この調査地点は、明石川左岸の台地の上に立地しています。調査の結果、古代から中世にかけての溝や土坑、ピットが検出されています。また、P11 区の土坑からは、須恵器の椀や甕がまとまって出土しています。

これらのことから、古代から中世にかけて台地上に集落が形成されていたことが明らかとなりました。



No. 164 地点の調査区

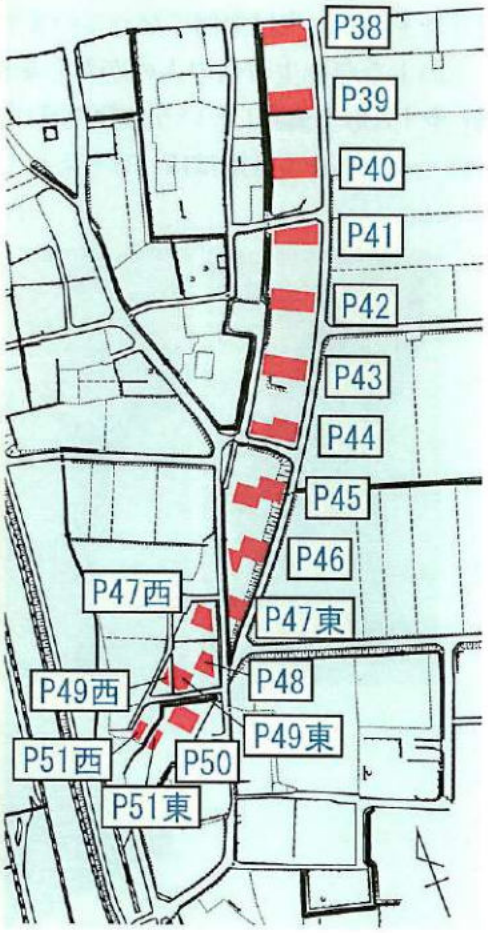
P11 区　土坑内から出土した須恵器

No. 175 地点

No. 171 地点の南側に位置するNo. 175 地点では、17 箇所で調査を行いました。調査の結果、弥生時代から近世にかけての遺構が検出されています。その中でも、中世の遺構が多くの調査区で確認されています。P48 区では、土坑の中からすり鉢や堝、羽釜、甕などがまとまって出土しています。また、付近の P46 区や P47 区からも同様に、土坑や溝から土師器や須恵器がまとまって出土しています。

このように、No. 175 地点を含めたこの辺り一帯には、中世の集落が広がっていたことが明らかとなりました。

P48 区　土坑から出土したすり鉢や堝、皿



No. 175 地点の調査区

ーまとめー

今回の調査の結果、弥生時代と平安時代以降の遺構と遺物が検出されました。なかでも弥生時代前期（約 2,300 年前）の遺構と遺物が注目されます。特筆すべきは、SD（溝）01 から出土した土偶と、SK（土坑）02 から出土した石棒です。これらは、縄文時代の文化を色濃く残した遺物であり、弥生土器と共に出土していることが注目されます。また、SK（土坑）04 と SK（土坑）05 から出土した土器は、土器棺墓と考えられ、こちらも縄文時代の文化の一端と考えられます。一方で、今回の調査では石包丁が 4 点出土しており、弥生文化の特徴と言える稲作を営んでいたと考えられます。

このように、縄文文化を象徴する土偶・石棒と、弥生文化を象徴する弥生土器・石包丁が共に出土している点が今回の調査の最大の成果と言えます。弥生時代前期は文化の移行期であり、縄文人と弥生人が共生していたことがわかる事例であると言えます。

弥生時代の土偶と石棒

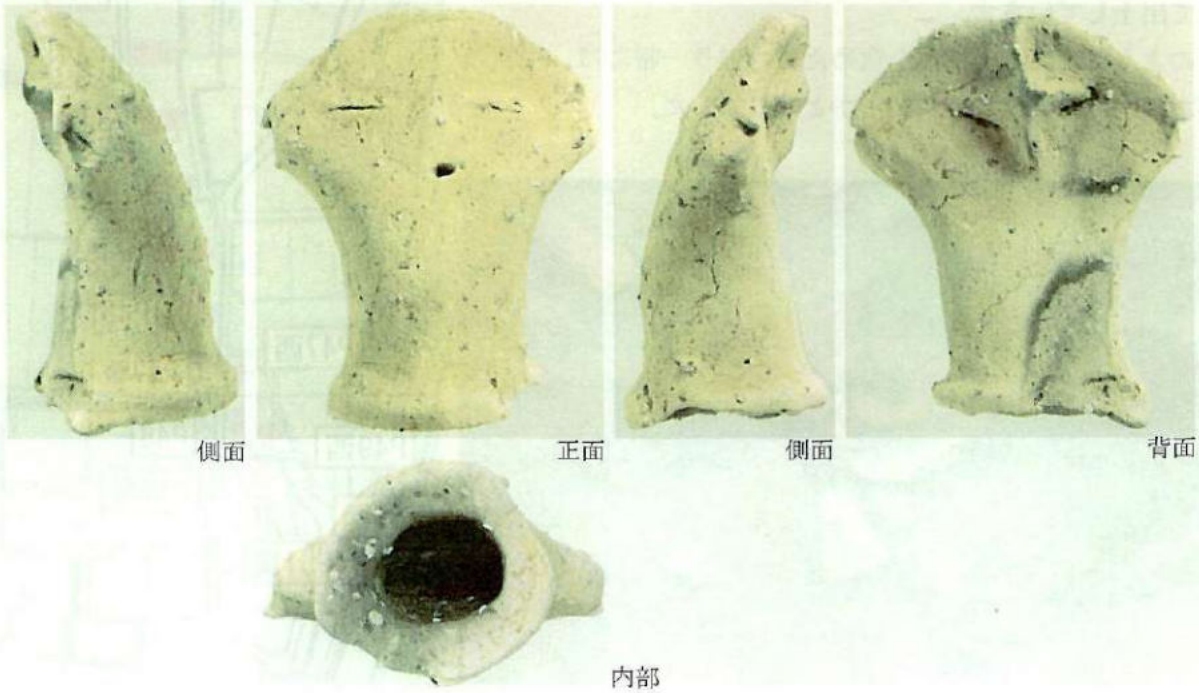
兵庫県を含めた近畿地域では、土偶と石棒は縄文時代の後半期に最も出土します。弥生時代になると、その出土数は減少の一途をたどっていきます。兵庫県内での弥生時代の出土例としては、土偶が 6 例目（神戸市内 4 例目）、石棒が 9 例目（神戸市内 7 例目）となります。また、土偶と石棒が同じ遺跡で出土した例としては 4 例目となります。

玉津田中遺跡から出土した土偶は、顔面が非常に丁寧に表現されており、中は空洞になっています。

このような弥生時代の人のかたちを模した土製品は、「土偶」や「人形土製品」という名称で呼ばれています。しかし、この二つの名称の区別ははっきりとはしていません。

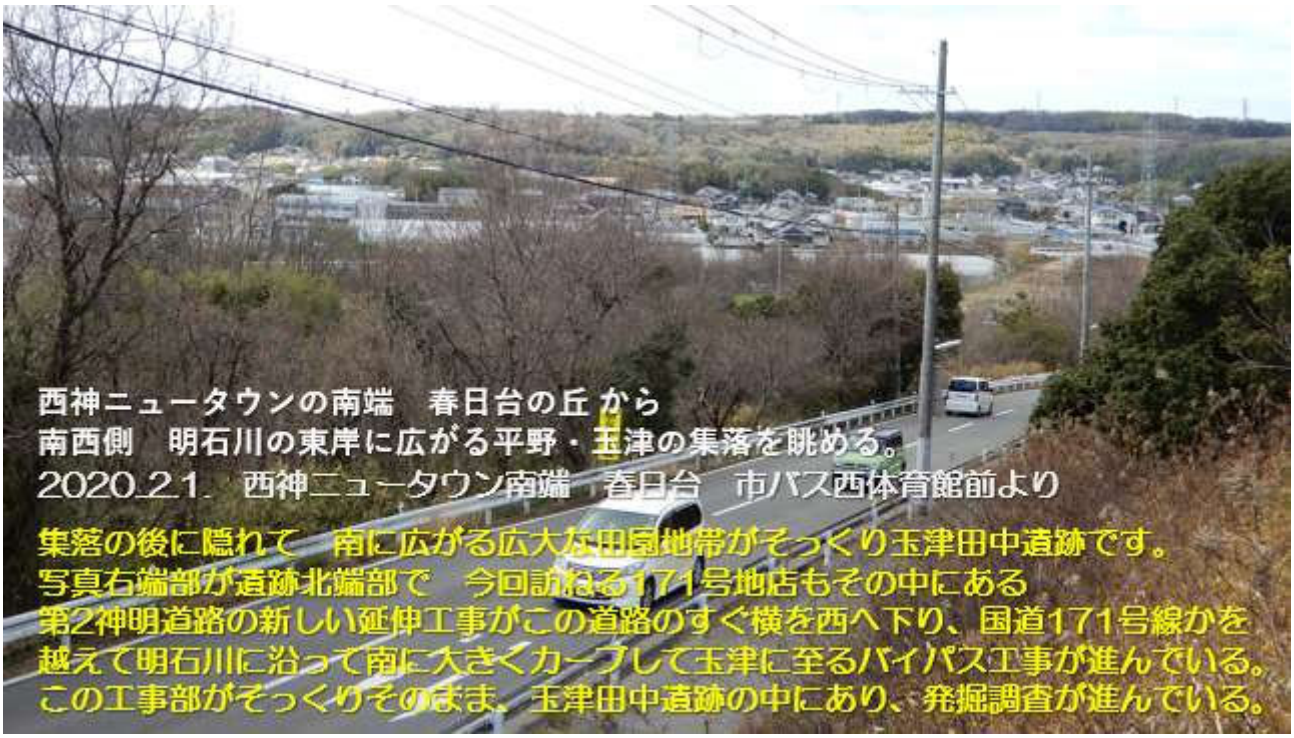
兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	



玉津田中遺跡から出土した土偶

3. 縄文人と弥生人が共生の痕跡が出土した 弥生の大集落遺跡　　2020.2.1.
神戸市西区 玉津田中遺跡の発掘現場 171 号地点を訪ねる



神戸西区玉津は神戸の一番西の端　南の明石や東の伊川谷から行くのですが、今回土偶などが出土した地点は第二神明バイパス予定地で玉津田中遺跡の北端　玉津の北側の街平野の下村集落。原チャリで行かないとすると・・・・・バス?　西神ニュータウンの丘を巡回バスに乗り、ニュータウンの南端春日台で下車すれば、その丘の南端が第二神明バイパス予定地。坂道を少し下れば、175 号線平野町下村の交差点。バスの便もよく、これだと毎日の walk でゆける。　早く行かないと発掘された遺構が埋め戻されてしまうと、2 月 1 日快晴の絶好の walking 日和。現説の開かれた発掘調査地 171 号地点へ。

坂道を下るとすぐに国道１７５線平野町下村のＴ字交差点　2020.2.1.
交差点の向こうに下村の里が広がり、先の道はバイパス道路の予定地と下村への生活道路である。

下村のＴ字交差点から西へ下村の生活道路にはいるとすぐ西は　見えないが、南に流れる明石川の東岸。
道はバイパス予定地を含め、南にカーブして集落を南に抜けてゆく。2020.2.1.
明石川が見えぬので、まず明石川の土手と集落の南に広がる田園地帯を一番にながめて、バイパス道路予定地と発掘現場を探そうと集落の中に入ってゆく。

玉津田中遺跡の北端　下村の集落に接する古代から中世の集落跡 164 号地点
ここから南側には広大な田園が玉津の町まで広がり、直ぐ西は明石川の土手。
金網で囲まれたバイパス道路予定地がここから明石川に沿って南へカーブして田園地をつききってゆく。この田園地全体が玉津田中遺跡で、バイパス工事予定地内が選択的に発掘調査されている。

2020. 2. 1.
バイパス予定地に沿って発掘現場を探しながら南へ
金網の中にブルドーザーが見え、難なく発掘調査値がわかる。　171号地点だった

平野町下村
春日台
164号地点
現在地
玉津寺
玉津田中遺跡
171号地点
発掘調査現場
中津橋
R175
175号地点
発掘調査現場

金網で囲まれたバイパス予定地が田園の中をCurvesしながら南へ
遠くブルドーザーが見え、そこが発掘現場のようだ　161号地点

161地点の北端から１６１地点の発掘現場を眺める　2020.2.1.
ラッキーなことに一部埋戻し破壊が始まっていましたが、
大半の発掘遺構が残されていました

土偶や石棒など縄文の痕跡を残すいぶつがが出土した
弥生の大集落跡玉津田中遺跡１６１地点の発掘現場
北端から南へ　2020.2.1.

北端から眺めた161地点発掘現場（北東端より）　2020.2.1.
すでに北側では埋め戻しが始まっていて、東西に走る３条の溝の中央部がブルドーザで壊されていた。
弥生の地層から縄文人と弥生人の共生を示す土偶などの遺物が出土した発掘調査地です。

No.171地点　1区（弥生時代前期）
玉津田中遺跡
P32
P33
P34
1区
P36
P37
No.171 地点調査地
No.171 地点　俯瞰写真

神戸市西区
玉津田中遺跡
南北約２キロ・東西約１キロの広さ

東側中央から眺めた161地点発掘現場全景　2020.2.1.

残念ながら　発掘された遺物を見ることができませんでしたが、
現説資料や報道資料でほぼ出土位置を知ることができました。
ひさしぶりにみねる縄文　それも縄文人と弥生人が共生した集落跡
嬉しい遺跡探訪になりました.　　2020.2.1.

縄文人と弥生人が共生した集落で生まれた土偶　縄文の土偶とは表情が随分異なって弥生的。でも空洞も形も縄文通り　嬉しい共生の証しです

久しぶりの関西からの縄文ニュース
縄文人と弥生人の共生を示す痕跡の証拠出土地の様子が見たくて、発掘現場の玉津田中遺跡 171 号地点へ。　現説も済んで 発掘調査地はもう埋め戻しが進んでいるかと思いましたが、
遺跡遺構が見られてラッキー。
縄文人と弥生人の共生集落は明石川東岸に広大な田園地に広がる大集落。スケールが大きい。
この明石川周辺には縄文から住み替えつつ、いくつもの集落遺跡があった。
縄文人と弥生人が交流・共生したのだろう。
また、弥生の農耕文化が進むにつれ、田園・水をめぐる集落間等の争いも増え、弥生の戦の痕跡も見られるようになる。
でも　縄文人と弥生人が生死をかけて争う戦さは見られず、両者が融合して日本人が誕生し、今に続く。日本人の心の奥底にある「お互いを認め合う心・やさしさ」のルーツがここに。

2 月初めとは思えぬ暖かな日　ゆっくりとそんな遺跡をめぐることができました。
私の住む西神戸の玉津田中遺跡
縄文の世界とともに「融和・共生」を今一度　現代社会にアピールする誇れる弥生遺跡。
縄文人と弥生人の共生　それが日本人を誕生させたと。
帰りに立ち寄った 175 号線脇の宝珠寺では、梅が花をつけ春近し。嬉しい一日でした。
2020.2.1.　広大な神戸西区の玉津田中遺跡　田園の中をあるきつつ

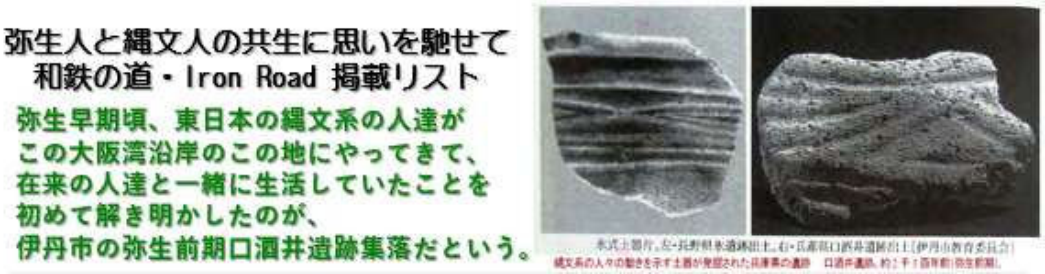
By Mutsu Nakanishi

久しぶりの関西からの縄文ニュース　202021.
縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す　弥生時代の大集落遺跡
神戸西区　玉津田中遺跡　171号地点発掘現場を訪ねる
【整理転載 &　参考資料】

【整理転載 &　参考資料】

1. 玉津田中遺跡　現地説明会資料　2020.1.26.（公財）兵庫県まちづくり技術センター
2. 神戸市教育委員会　記者発表資料 2020.1.21.
   玉津田中遺跡（神戸市西区平野町）の発掘調査成果と現地説明会
   http://www.hyogo-c.ed.jp/~boardbo/kisya31/3201/320122kouko.pdf
3. ニュース「玉津田中遺跡　現地説明会」　SunTV・神戸新聞 Next ほか

【和鉄の道・Iron Road　:関連掲載記事】



1. 畿内と播磨の境　　明石川・伊川流域
   弥生の高地性集落「表山」遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf
2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　　2006.12.5.
   神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫨谷
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf
3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す
   大阪湾沿岸の弥生集落　田能・口酒井遺跡を訪ねる　2012.12.21.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf
4. 心優しき縄文人　縄文帰りの勧め　　2014.6.1.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf

兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	

Photo Album 玉津田中遺跡発掘現場 171 号地点 Walk

久しぶりの関西からの縄文ニュース　2020.2.1.

縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土

縄文人・弥生人共生を示す　弥生時代の大集落遺跡

神戸西区　玉津田中遺跡　171号地点発掘現場を訪ねる

神戸新聞NEXT

弥生時代の集落跡から
縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1. 22.

兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	

久しぶりの関西からの縄文ニュース
縄文人と弥生人の共生を示す痕跡の証拠出土地の様子が見たくて、発掘現場の玉津田中遺跡 171 号地点へ。　現説も済んで発掘調査地は埋め戻しが進んでいるかと思いましたが、遺跡遺構が見られてラッキー。
縄文人と弥生人の共生集落は明石川東岸に広大な田園地に広がる大集落。
この明石川周辺には縄文から住み替えつつ、いくつもの集落遺跡があり、縄文人と弥生人が交流・共生したのだろう。そして、また、弥生の農耕文化が進むにつれ、田園・水をめぐる集落間等の争いも増え、弥生の戦の痕跡も見られるようになる。

でも　縄文人と弥生人が生死をかけて争う戦さは見られず、両者が融合して日本人が誕生し、今に続く。日本人の心の奥底にある「お互いを認め合う心・やさしさ」のルーツがここに。

2 月初めとは思えぬ暖かな日　ゆっくりとそんな遺跡をめぐることができました。
私の住む西神戸の玉津田中遺跡　縄文の世界とともに「融和・共生」を今一度　現代社会にアピールする誇れる弥生遺跡。縄文人と弥生人の共生　それが日本人を誕生させた。
帰りに立ち寄った 175 号線脇の宝珠寺では、梅が花をつけ春近し。嬉しい一日でした。

2020.2.1.　広大な神戸西区の玉津田中遺跡　田園の中をあるきつつ

By Mutsu Nakanishi

Album の photo に貼られた参考資料のリンクはほとんど動きませんが、
Album の最後の Page にリンクが動くよう再録しました。

神戸新聞　2020.1.22.　朝刊

弥生の土偶「のっぺり顔」

狩猟から農耕へ「変遷知る史料」

玉津田中遺跡から見つかった土偶。表情が平面的で弥生人の特徴を示す＝神戸市西区平野町

兵庫県教育委員会は22日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは4例目。専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。（佐藤健介）

神戸・玉津田中遺跡で発見

同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約1・5平方キロメートル。第二神明道路建設工事に伴い、2019年5月から調査していた。西側にある弥生前期（約2300年前）の集落跡から、土偶の頭部（長さ約7センチ、最大幅約6センチ）と石棒（長さ約46センチ、最大幅約5・3センチ）が各1点、ほぼ完全な形で発見された。

土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくっきりして彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

秋山浩三・桃山学院大客員教授（考古学）は「呪術に象徴される縄文精神の残影が、弥生へ共存していたことを如実に示している。狩猟文化が農耕文化を受け入れる過程の解明が期待できる」と評価している。

現地説明会は26日午後1時半～3時にあり、県立考古博物館（播磨町）で同日午後0時半～1時に説明会を現地からライブ中継する。

現場事務所☎078・961・0678（平日午後0時10分～1時、同5～6時）

2020.1.22.　新聞・TVが大きく報道
「弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土　また土坑からは弥生の土器と石棒も出土」
縄文人と弥生人の共生を示す痕跡の証拠　それもすぐ近くの西神戸玉津田中遺跡からの出土。

神戸新聞NEXT

弥生時代の集落跡から縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1. 22.

10数年前　縄文・弥生時代に興味を持ち出した頃、「弥生は戦き　縄文は平和な時代」と教えてもらい、弥生の戦について調べたことがある。
弥生時代　大阪平野には殺傷痕跡を持つ人骨がいくつも出土し、周辺の高地には戦の備えという高地性集落が数多く出現。でも　縄文から弥生に移るとき　弥生人と縄文人はお互い戦わず、共生していた。
縄文から弥生へ移る時代の中で、人種間の大きな戦はなかったと。
そんな証拠として、弥生の土器とともに縄文の祭りの象徴　石棒と土偶が出土した伊丹市の口酒井遺跡を知り、強く感銘を受けた事がある。
それから　:10数年　縄文が教科書からも消え、ないがしろにされる今　また、縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた玉津田中遺跡がクローズアップ。
『心優しき縄文人　縄文帰りの勧め』を口にする私にとっては久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、現地説明会には要生きませんでしたが、1週間後の2月1日　西神戸の玉津田中遺跡を訪ねました。

弥生人と縄文人の共生に思いを馳せて
和鉄の道・Iron Road 掲載リスト

弥生早期頃、東日本の縄文系の人達がこの大阪湾沿岸のこの地にやってきて、在来の人達と一緒に生活していたことを初めて解き明かしたのが、伊丹市の弥生前期口酒井遺跡集落だという。

1. **畿内と播磨の境　明石・伊川流域**
   弥生の高地性集落「表山 遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf
2. **.弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　2006.12.5.**
   神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫨谷
   弥生初期から多くの集落があり、平野を見下ろす丘陵の上には高地性集落ここでも「弥生の戦さ」があった
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf
3. **水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す**
   大阪湾沿岸の弥生集落　田能・口酒井遺跡を訪ねる　2012.12.21.
   1.大阪湾の海岸部　猪名川河口周辺　弥生の大集落　田能遺跡
   2.田能遺跡資料館「弥生の鉄　石器から鉄器へ」展示
   3.東日本の縄文系の人が一緒に暮らしていた弥生の集落　口酒井遺跡
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf
4. **心優しき縄文人　縄文帰りの勧め　2014.6.1.**
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf

兵庫県教育委員会記者発表　2020.1.22. より　http://www.hyogo-c.ed.jp/~boardbo/kisya31/3201/320122kouko.pdf

縄文人と弥生人の共存を示す　弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土
神戸市西区平野町下村　明石川東岸　第二神明バイパス工事現場　玉津田中遺跡 No171 地点

弥生時代の集落跡から縄文の土偶など出土　神戸・玉津田中遺跡
2020.1. 22.　神戸新聞の報道

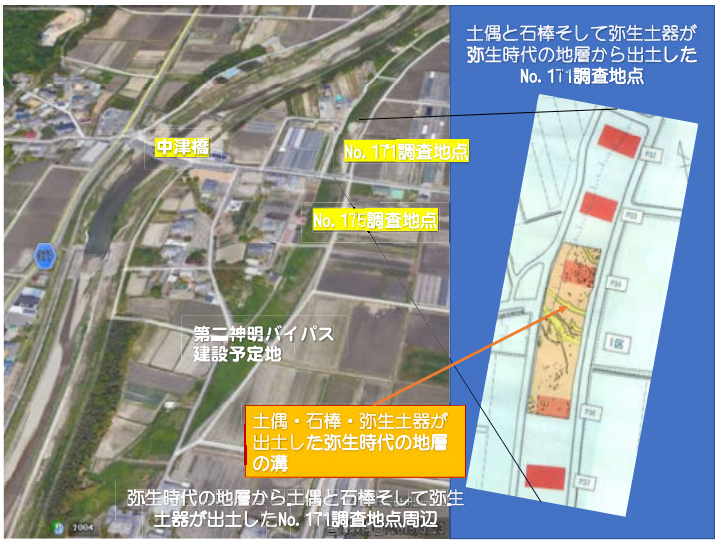
兵庫県教育委員会は２２日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。
土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは４例目。
専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。
同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約１・５平方キロメートル。
第二神明道路バイパス建設工事に伴い、２０１９年５月から調査していた。

神戸新聞NEXT

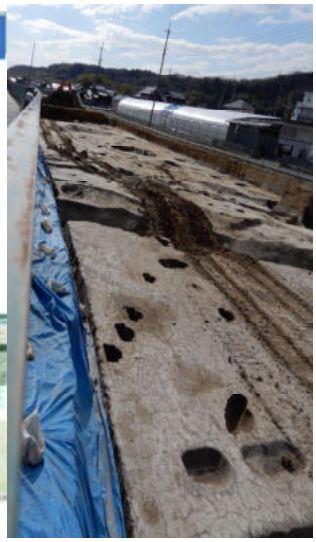
弥生時代の集落跡から縄文の土偶など出土
神戸・玉津田中遺跡
2020.1. 22.

西側にある弥生前期（約２３００年前）の集落跡から、土偶の頭部（長さ約７センチ、最大幅約６センチ）と石棒（長さ約４６センチ、最大幅約５・３センチ）が各１点、ほぼ完全な形で発見された。
土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくっきりして彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

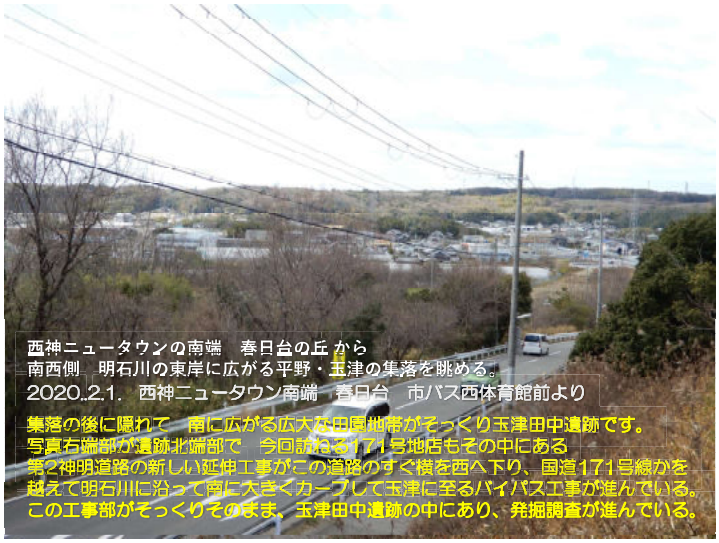
土偶などが出土した
今回の調査地点
（第二神明バイパス建設予定地）
玉津田中遺跡
玉津IC
Akashi
明石市
NISHI-AKASHI STATION
西明石駅
Sanyo-Akashi
山陽明石駅
Seishin-chuo
西神中央
No. 354 地点
No. 171 地点
No. 175 地点
春日台（玉）
1/15,000


土偶と石棒そして弥生土器が
弥生時代の地層から出土した
No. 171調査地点
中津橋
No. 171調査地点
No. 175調査地点
第二神明バイパス
建設予定地
土偶・石棒・弥生土器が
出土した弥生時代の地層
の溝
弥生時代の地層から土偶と石棒そして弥生
土器が出土したNo. 171調査地点周辺

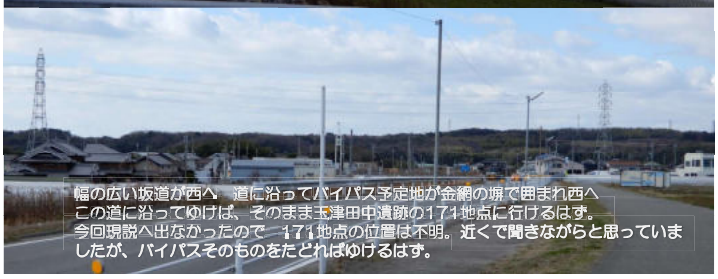
縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土
神戸市西区平野町下村 明石川東岸 第二神明道路工事現場 玉津田中遺跡 No171 地点
玉津田中遺跡



縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す　弥生時代の大集落遺跡　171号地点を訪ねる
2020.2.1.　by Mutsu Nakanishi
滝川第二高　春日台
第二神明道路バイパス
建設予定地
171号地点
弥生の大集落
を中心とした
玉津田中遺跡
神戸市西区
玉津田中
玉津IC


西神ニュータウンの南端　春日台の丘から
南西側　明石川の東岸に広がる平野・玉津の集落を眺める。
2020.2.1.　西神ニュータウン南端　春日台　市バス西体育館前より
集落の後に隠れて　南に広がる広大な田園地帯がそっくり玉津田中遺跡です。
写真右端部が遺跡北端部で　今回訪ねる171号地点もその中にある
第2神明道路の新しい延伸工事がこの道路のすぐ横を西へ下り、国道171号線かを
越えて明石川に沿って南に大きくカーブして玉津に至るバイパス工事が進んでいる。
この工事部がそっくりそのまま、玉津田中遺跡の中にあり、発掘調査が進んでいる。

道の南側田園のむこうに玉津の街そしてその背後に薄く淡路島の丘陵地が薄く4見えて
いる。　すぐ向こうが明石海峡　この周辺も明石川が流れ下る海岸近くだ。

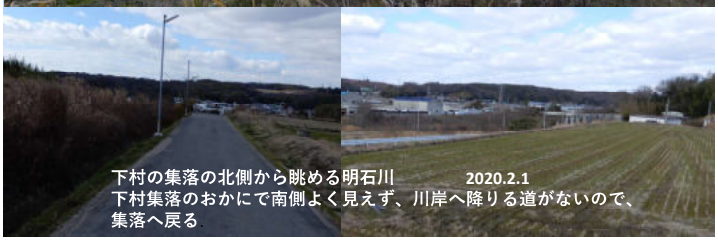

幅の広い坂道が西へ　道に沿ってバイパス予定地が金網の塀で囲まれ西へ
この道に沿ってゆけば、そのまま玉津田中遺跡の171地点に行けるはず。
今回現説へ出なかったので　171地点の位置は不明。近くで聞きながらと思っていま
したが、バイパスそのものをたどればゆけるはず。

坂道を下るとすぐに国道１７５線平野町下村のT字交差点　2020.2.1.
交差点の向こうに下村の里が広がり、先の道はバイパス道路の予定地と下村
への生活道路である。

国道１７５線平野町下村のT字交差点　2020.2.1.

南　玉津から明石へ
西　下村の集落
北　平野・神出から三木へ

下村のT字交差点から西へ下村の生活道路にはいるとすぐ西は　見えないが、南に流れる明石川の東岸。道はバイパス予定地を含め、南にカーブして集落を南に抜けてゆく。2020. 2. 1.
明石川が見えぬので、まず明石川の土手と集落の南に広がる田園地帯を一番にながめて、バイパス道路予定地と発掘現場を探そうと集落の中に入ってゆく。



下村の集落の北側から眺める明石川　　2020.2.1
下村集落のおかにで南側よく見えず、川岸へ降りる道がないので、集落へ戻る

集落の中の藪の中　金網で囲まれたバイパス予定地にに沿って進むと
金網に発掘調査中の張り紙　　後で玉津田中遺跡　164地点と知れました

集落の中を丘を越えて南側に回り込むと南の広い田園地がみえました
この田園地全体が玉津田中遺跡　縄文・弥生から中世への大集落遺跡です。

また、集楽の藪の中　バイパス予定地の金網に発掘調査中のは野上を見つけた

明石川に沿う下村の里の丘西端を南に越える藪に接するバイパス予定地の網に
発掘調査中の張り紙と玉津田中遺跡発掘調査地が見える。
うめもどされて? 中の様子はよくわからず。
でもTVでみた広い場所でなく、後で164号地点と知れました。

後で164号地点と知れた明石川に沿う下村の里の丘西端
埋戻されているのか? 中の様子はよくわからず。でもTVでみた広い場所でない。
Google earth　photo でも確認

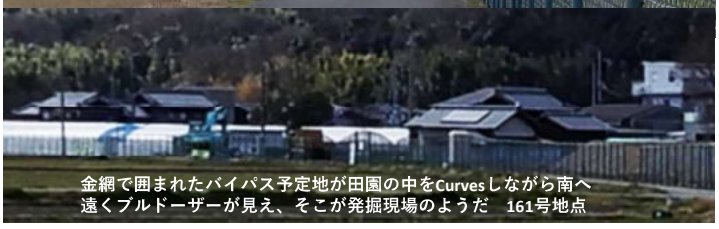
集落がある高台の西端１６４号地点から崖下の道を挟んで明石川の土手。
また、やっと南北の見通しが効く土手にでられました　2020.2.1.

平野町下村の集落横の明石川土手で　2020.2.1.

平野町下村の明石川土手空眺める集落南の広い田園地　2020.2.1.
金網に囲まれたバイパスの予定地がその真ん中を北から南へ
このどこかに今回の発掘調査地があるのですが、ここからはよくわからない

下村集落を南に抜け、明石川沿い南の広大な田園知の北端　2020.2.1.
バイパス予定地が南に伸び、この中に今回土偶などが出土した発掘現場がある

2020.2.1.
バイパス予定地に沿って発掘現場を探しながら南へ
金網の中にブルドーザーが見え、難なく発掘調査値がわかる。　171号地点だった



金網で囲まれたバイパス予定地が田園の中をCurvesしながら南へ
遠くブルドーザーが見え、そこが発掘現場のようだ　161号地点

161地点の北端から１６１地点の発掘現場を眺める　2020.2.1.
ラッキーなことに一部埋戻し破壊が始まっていましたが、
大半の発掘遺構が残されていました

１６１地点の発掘現場　北端から南へ　2020.2.1.

北端から眺めた161地点発掘現場（北東端より）　2020.2.1.
すでに北側では埋め戻しが始まっていて、東西に走る３条の溝の中央部がブルドーザで壊されていた。
弥生の地層から縄文人と弥生人の共生を示す土偶などの遺物が出土した発掘調査地です。

南端から眺めた161地点発掘現場（南西端から）　2020.2.1.
この発掘調査地の南北の端にはたくさんの柱穴が見られ、中央部3条の溝遺構がみられる

161地点発掘現場の3条の溝が走る南北の中央部（南東側から北西側）　2020.2.1.
残念ながらブルドーザーによる破壊埋戻しが始まっていた

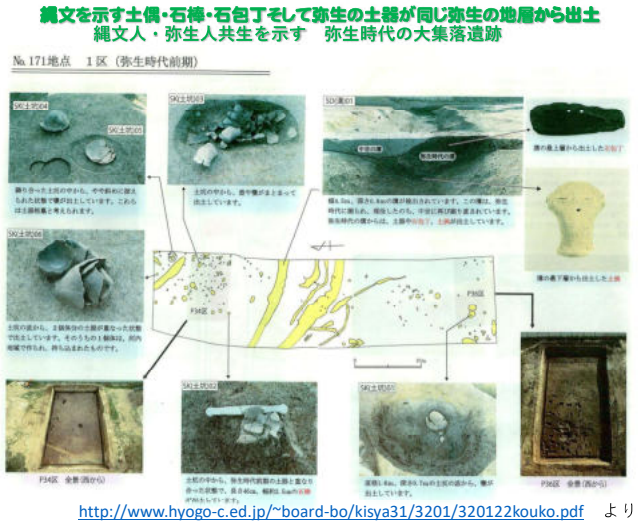
南東側から眺めた161地点発掘現場　2020.2.1.

東側中央から眺めた161地点発掘現場全景　2020.2.1.

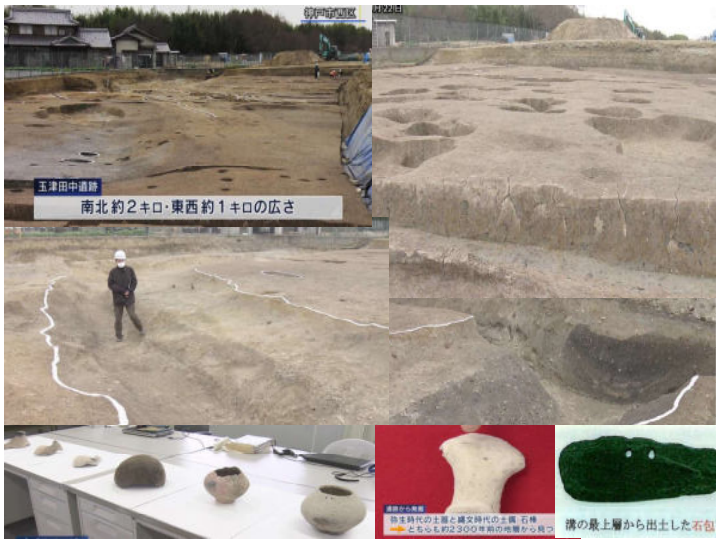
南側から

北側から

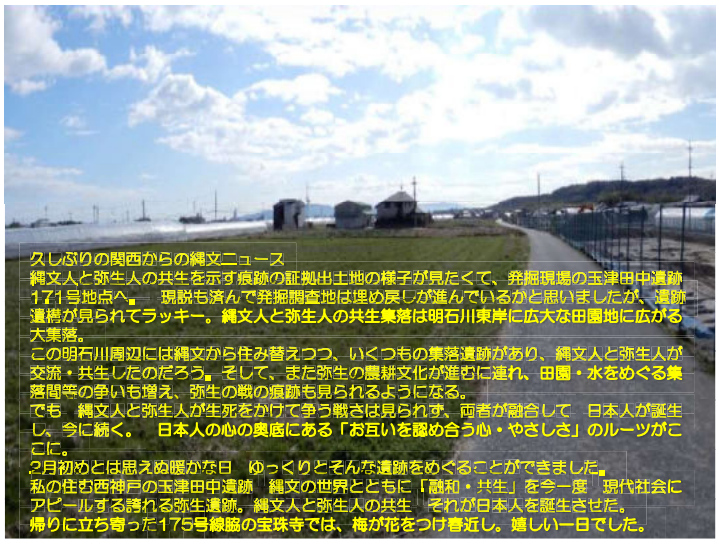
残念ながら　発掘された遺物を見ることができませんでしたが、
現説資料や報道資料でほぼ出土位置を知ることができました。
ひさしぶりにみねる縄文　それも縄文人と弥生人が共生舌集落跡
嬉しい遺跡探訪になりました。　2020.2.1.



http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya31/3201/320122kouko.pdf　より



縄文人と弥生人が共生した集落で生まれた土偶　縄文の土偶とは表情が
随分異なって弥生的。でも空洞も形も縄文通り　嬉しい共生の証しです



弥生人と縄文人の共生に思いを馳せて
和鉄の道・Iron Road 掲載リスト

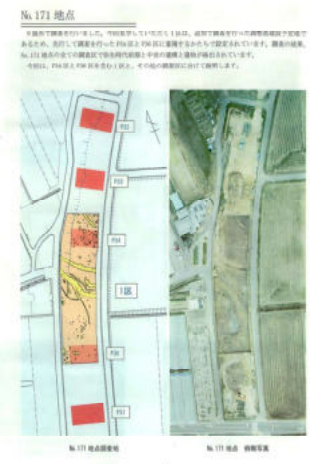
弥生早期頃、東日本の縄文系の人達が
この大阪湾沿岸のこの地にやってきて、
在来の人達と一緒に生活していたことを
初めて解き明かしたのが、
伊丹市の弥生前期口酒井遺跡集落だという。

1. 畿内と播磨の境　明石川・伊川流域
   弥生の高地性集落「表山 遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf
2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　2006.12.5.
   神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫨谷
   弥生初期から多くの集落があり、平野を見下ろす丘陵の上には高地性集落
   ここでも「弥生の戦さ」があった
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf
3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す
   大阪湾沿岸の弥生集落　田能・口酒井遺跡を訪ねる　2012.12.21.
   1.大阪湾の海岸部　猪名川河口周辺　弥生の大集落　田能遺跡
   2.田能遺跡資料館「弥生の鉄　石器から鉄器へ」展示
   3.東日本の縄文系の人が一緒に暮らしていた弥生の集落　口酒井遺跡
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf
4. 心優しき縄文人　縄文帰りの勧め　2014.6.1.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf

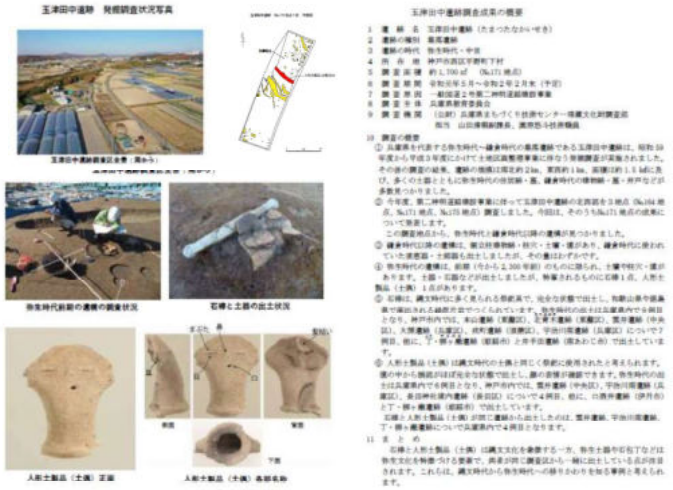
久しぶりの関西からの縄文ニュース　2020.2.1.
縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す　弥生時代の大集落遺跡
神戸西区　玉津田中遺跡　171号地点発掘現場を訪ねる
【整理転載 & 参考資料】

【整理転載 & 参考資料】
1. 玉津田中遺跡　現地説明会資料　2020.1.26.（公財）兵庫県まちづくり技術センター
2. 神戸市教育委員会　記者発表資料 2020.1.21.
   玉津田中遺跡（神戸市西区平野町）の発掘調査成果と現地説明会
   http://www.hyogo-c.ed.jp/~boardbo/kisya31/3201/320122kouko.pdf
3. ニュース「玉津田中遺跡　現地説明会」　SunTV・神戸新聞Nextほか

【和鉄の道・Iron Road :関連掲載記事】
1. 畿内と播磨の境　明石川・伊川流域
   弥生の高地性集落「表山 遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf
2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　2006.12.5.
   神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫨谷
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf
3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す
   大阪湾沿岸の弥生集落　田能・口酒井遺跡を訪ねる　2012.12.21.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf
4. 心優しき縄文人　縄文帰りの勧め　2014.6.1.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf



兵庫県教育委員会記者発表　2020.1.22. より　http://www.hyogo-c.ed.jp/~boardbo/kisya31/3201/320122kouko.pdf



神戸新聞　2020.1.22.　朝刊

弥生の土偶「のっぺり顔」

狩猟から農耕へ「変遷知る史料」

兵庫県教育委員会は22日、神戸市西区平野町の玉津田中遺跡で弥生時代前期の集落跡から土偶と石棒が見つかったと発表した。土偶と石棒は縄文時代の祭りなどで使われたとされる。県内で、同じ弥生時代の遺跡から両方が出土したのは4例目。専門家は「縄文から弥生へ、時代がどう移り変わったのかを知る上で貴重な史料だ」としている。（佐藤健介）

神戸・玉津田中遺跡で発見

同遺跡は弥生、鎌倉時代の集落遺跡で約1・5万㎡。第二神明道路建設工事に伴い、2019年5月から調査していた。西側にある弥生前期（約3300年前）の集落跡から、土偶の頭部（長さ約7㌢、最大幅約6㌢）と石棒（長さ約46㌢、最大幅約5・3㌢）が各1点、ほぼ完全な形で発見された。

土偶の首は円柱形をしており、顔が平らで目が細く、鼻も小さい。目鼻立ちがくっきりして彫りが深いとされる縄文人に比べ、のっぺりとした弥生人の特徴を示す。弥生の土偶で整った形のものは珍しいという。

秋山浩三・桃山学院大客員教授（考古学）は「呪術に象徴される縄文精神の残影が、弥生でも共存していたことを如実に示している。狩猟文化が農耕文化を受け入れる過程の解明が期待できる」と評価している。

現地説明会は26日午後1時～3時にあり、県立考古博物館（播磨町）で同日午後0時半～1時に説明会を現地からライブ中継する。

現場事務所☎078・961・0678（平日午後0時10分～1時、同5～6時）

玉津田中遺跡から見つかった土偶。表情が平面的で弥生人の特徴を示す＝神戸市西区平野町

縄文人と弥生人が共生した集落で生まれた土偶　　縄文の土偶とは表情が随分異なって弥生的。でも空洞も形も縄文通り　嬉しい共生の証しです

2020.1.22.　新聞・TVが大きく報道
「弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土　また土坑からは弥生の土器と石棒も出土」
縄文人と弥生人の共生を示す痕跡の証拠　それもすぐ近くの西神戸玉津田中遺跡からの出土。

10数年前　縄文・弥生時代に興味を持ち出した頃、「弥生は戦さ　縄文は平和な時代」と教えてもらい、弥生の戦について調べたことがある。
弥生時代　大阪平野には殺傷痕跡を持つ人骨がいくつも出土し、周辺の高地には戦の備えという高地性集落が数多く出現。でも　縄文から弥生に移るとき　弥生人と縄文人はお互い戦わず、共生していた。
縄文から弥生へ移る時代の中で、人種間の大きな戦はなかったと。
そんな証拠として、弥生の土器とともに縄文の祭りの象徴　石棒と土偶が出土した伊丹市の口酒井遺跡を知り、強く感銘を受けた事がある。
それから　10数年　縄文が教科書からも消え、ないがしろにされる今　また、縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた玉津田中遺跡がクローズアップ。
「心優しき縄文人　縄文帰りの勧め」を口にする私にとっては久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、現地説明会には要生きませんでしたが、1週間後の2月1日　西神戸の玉津田中遺跡を訪ねました。

久しぶりの関西からの縄文ニュース　2020.2.1.
縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す　弥生時代の大集落遺跡
神戸西区　玉津田中遺跡　171号地点発掘現場を訪ねる

兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

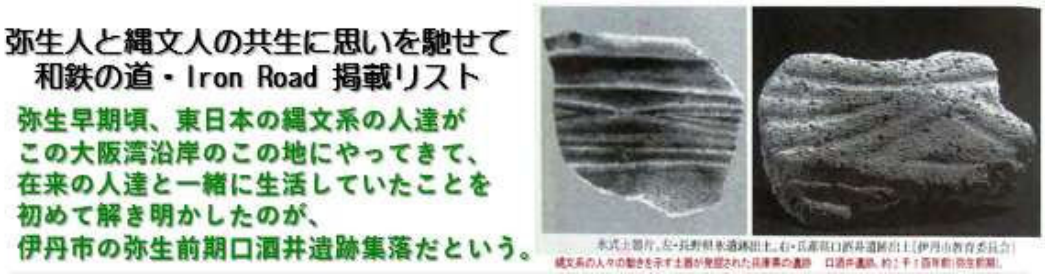
遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	

久しぶりの関西からの縄文ニュース　202021.
縄文を示す土偶・石棒・石包丁そして弥生の土器が同じ弥生の地層から出土
縄文人・弥生人共生を示す　弥生時代の大集落遺跡
神戸西区　玉津田中遺跡　171号地点発掘現場を訪ねる
【整理転載 &　参考資料】

【整理転載 &　参考資料】

1. 玉津田中遺跡　現地説明会資料　2020.1.26.（公財）兵庫県まちづくり技術センター
2. 神戸市教育委員会　記者発表資料 2020.1.21.
   玉津田中遺跡（神戸市西区平野町）の発掘調査成果と現地説明会
   http://www.hyogo-c.ed.jp/~boardbo/kisya31/3201/320122kouko.pdf
3. ニュース「玉津田中遺跡　現地説明会」　SunTV・神戸新聞 Next ほか

【和鉄の道・Iron Road　:関連掲載記事】



1. 畿内と播磨の境　　明石川・伊川流域
   弥生の高地性集落「表山」遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf
2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して　　2006.12.5.
   神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫨谷
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf
3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す
   大阪湾沿岸の弥生集落　田能・口酒井遺跡を訪ねる　2012.12.21.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf
4. 心優しき縄文人　縄文帰りの勧め　　2014.6.1.
   https://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf

兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	